

6

各エリアの景観特性



日本橋川エリア

- **日本橋川エリア**では、日本橋川の護岸整備により、全域を通して水面までの高低差があるため、水面の印象が薄くなっています。
- 上空には首都高速道路が全区間にわたって通っており、頭上に閉塞感があるという印象を強く与えています。
- 川沿いの多くの箇所では建築物が立ち並び、川を通じた良好な見通しは確保されていません。一方で、再開発により川沿いに樹木の植えられた幅広な歩行者空間が確保されるなど、水辺に顔を向けたまちづくりの取組みが始まっています。



▲首都高により閉塞感がある日本橋川



神田川エリア

- **和泉橋地域**では、下流になるにつれ川幅が広くなり、川の上空には空の広がりを感じられますが、階数の高いビルが川の近傍に林立しており、橋の上からでないと川の存在は確認できません。
- **万世橋地域**では、昌平橋・万世橋とアーチ形の震災復興橋りょうが続いています。沿川には旧万世橋駅の赤レンガがあり、その上を鉄道が通過しており、土木建造物が織りなす複合的な景観となっています。



▲昌平橋付近の神田川と鉄道が織りなす複合的な景観

- **御茶ノ水駅**付近は、江戸時代に台地を開削して作られた場所であり、その部分だけ周辺の土地に比べ水面の位置が低くなっていて、川も若干蛇行しています。そのため、都心には珍しい渓谷のような景観となっており、江戸時代には茗溪として町民に親しまれていました。さらに、その上

に架かるアーチが特徴的な聖橋とともに象徴的な風景となっています。

- **神保町・飯田橋地域**では、護岸に沿ってビルが立ち並び、護岸整備により川の上空にのみ空間が抜けたような印象となっている一方、周辺地域からはビルにより川への眺めが遮断されているため、川がある印象は薄くなっています。



▲聖橋方面

📍 外濠エリア

- **飯田橋・富士見地域**では、牛込橋やJR飯田橋駅2階のデッキから、外濠、JR総武線・中央線、川沿いの建築物が見渡せる眺望点となっています。
- **外濠エリア全域**では、外濠沿いに線状に続く公園から線路を挟む地形ですが、外濠を見下ろすことができ、また、公園には多くの樹木が並び、都心では貴重な緑と水を感じられる空間となっています。



▲外濠公園からみた外濠

7 ▶ 眺望点とランドマーク

各エリアにおける眺望できる箇所、および地域のランドマークとして目立つ建築物の抽出を行いました。

📍 日本橋川エリア

首都高速道路が川の上空を覆っている関係から、常盤橋公園付近の一部しか川を活かした眺望ができる箇所はありません。



▲常盤橋公園から見た常盤橋

■日本橋川エリアの眺望点とランドマークとなる建築物





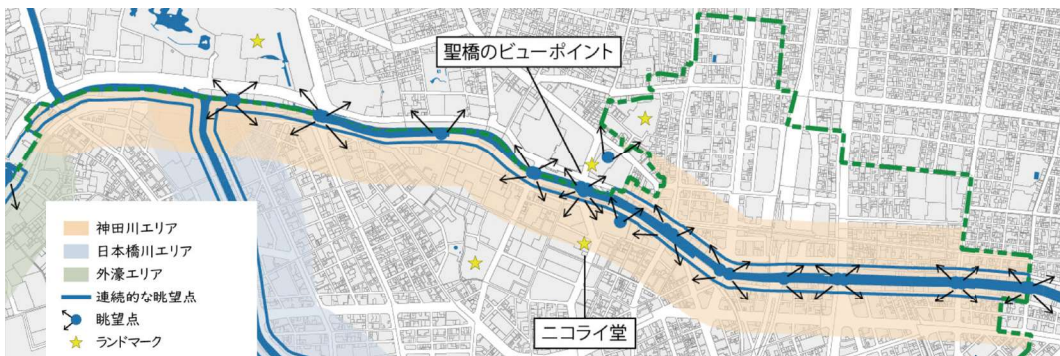
神田川エリア

- 川に架かる橋りょうのほとんどから眺望できます。
- 水道橋からお茶の水にかけて、台地を登っていく路上から連続して、川と対岸の緑を見渡せます。
- 聖橋は、JR線や地下鉄丸ノ内線線及びニコライ堂などが見られるビューポイントとなっています。



▲聖橋からみた秋葉原方向

■神田川エリアの眺望点とランドマークとなる建築物



外濠エリア

- 濠に架かる橋りょうのほとんどから眺望できます。
- 外濠公園を通して連続した眺望ができるほか、四ツ谷付近では橋の上から聖イグナチオ教会が望めるなど、特徴的な眺望があります。



▲聖イグナチオ教会



■外濠エリアの眺望点とランドマークとなる建築物

8

水辺に近づける場所

水辺に近づける場所として、「川と歩行者の動線の間には障害物がない」、「水面に近づくことが可能である」ことを条件に整理を行いました。



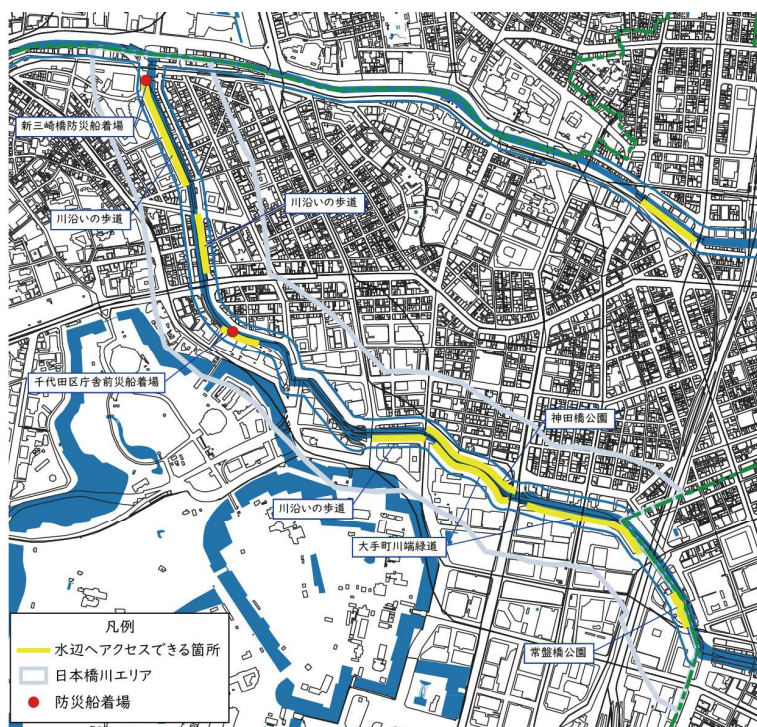
日本橋川エリア

- 護岸整備により水面と歩道との間に高低差があります。
- 川沿いにも建築物が多く立ち並んでおり、水辺の近くまでアクセスできる地点は限られています。
- 近年、開発が行われた飯田橋アイガーデンエアや大手町川端緑道では、川に沿って歩道が整備され、幅員の広い歩行者空間が確保されるとともに、川に面したベンチ等の休憩施設が配置されるなど、水辺に近づける空間の整備が行われています。
- 水面に近づける箇所として、防災船着場（新三崎橋、千代田区庁舎前）があります。



▲大手町川端緑道に設置されたベンチ

■日本橋川エリアの水辺に近づける箇所





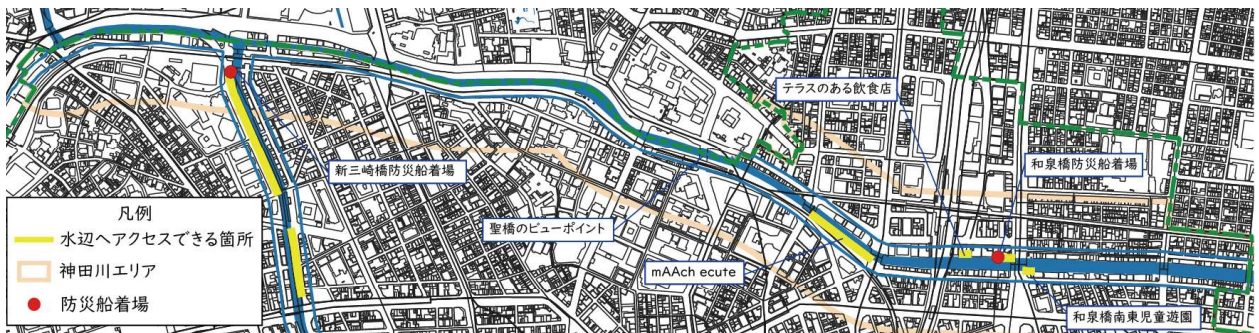
神田川エリア

- **神保町地域から万世橋地域**にかけては、鉄道が川と市街地の間を通っており、また、川が谷底を通っているため、水辺に近づける地点は少なくなっています。
- **万世橋地域**には、川に面した商業施設として、川沿いにテラスを設けたmAch ecuteがあります。
- **和泉橋地域**では、和泉橋防災船着場に隣接した広場から、階段状になった敷地形状により水面の近くまで行くことができるほか、飲食店の中にテラスが設置されている場所もあります。また、橋詰に設けられた小規模な公園においても、水辺近くまで行くことができます。



▲和泉橋船着場の広場

■神田川エリアの水辺に近づける箇所



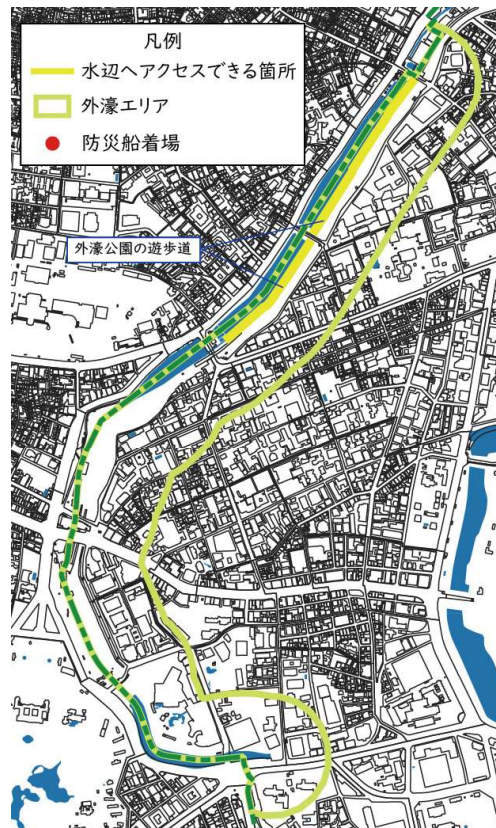
column

宮田 保美（区民委員）

日本が高度成長期にあった頃、神田で小中学生時代を過ごした記憶の中で、日本橋川と神田川は、悪臭、ヘドロの漂う大きな排水路のように思えておりました。時代が移り徐々に浄化がなされ、最近では鯉が泳ぐ風景も見られるようになったとは言え、十分に水質改善がなされた状況とは思われませんが、今後のご当局様の水質浄化の取り組みには期待を寄せております。それを踏まえたくて、この度の“見て、歩いて、くつろぎ、遊べる河川及び街並み”を変えていこうという計画に対し、大いに希望を寄せるものであります。特に日本橋川の上には首都高速道路が走り、川面及び周辺に陽の当たらない暗い空間が続いていますが、首都高速道路の地下化に伴い明るい空間の確保が可能となっていくことから、川沿いの空間が楽しめる方向に変わっていくことを期待しております。一方、神田川には、お茶の水付近の自然、JRの交差する鉄橋と走行する電車や地下鉄丸ノ内線の風景があり、浅草橋付近に池波正太郎の時代劇小説を想起させる風景などもあり、これらはなるべくなら残っていてほしい風景かなと秘かな希望を抱いております。何れにせよ川沿いを楽しみ、かつ面白さを多くの面から確保されていくことを期待致します。また、本委員会を通じ、関係の委員の皆様や行政の方々との意見交換の機会をいただいたことに感謝申し上げます。

外濠エリア

- 川沿いに線状に連なる公園から、鉄道を挟んで外濠を見下ろすことができ、水辺に近づける地点もあります。



外濠エリアの水辺に近づける箇所

〈各エリアの比較考察〉

各エリアの現状を整理すると以下のとおりとなります。

- 日本橋川エリアは、人口の増加が3エリアの中で最も緩やかであり住宅用地が土地利用に占める割合も小さくなっています。地域資源としては震災復興橋りょうが多く、水辺にアクセスできる箇所が多いエリアです。
- 神田川エリアは、人口・世帯数の増加が3エリアの中で最も大きくなっています。また、公園や眺望点が多く存在し、川を近くで感じられる箇所が点在していることがわかります。
- 外濠エリアは、住宅用地の割合が大きく、人口増加率に比べて世帯の増加率は緩やかになっています。また、神田川エリアと同じく眺望点が多く存在し、川を見ることのできる箇所の活用が望まれます。



📍 共通の課題

▶▶▶ 分断された川沿いのまちづくり

川は、多くのまちを通っており、川沿いには、歴史ある橋りょうや文化が感じられる神社・寺院などの資源が多く存在しています。しかし、川はまちや資源と分断されており、活かしきれていない課題があります。

▶▶▶ 水辺空間の回遊性の低さ

水辺に近づく場所では、それぞれ独立している場所が多く、回遊性が低い現状となっています。特に神田川は、川沿いが民地（建築物）となっており、水辺を感じられる場所が少ない状況です。水辺を感じられる場所の連続性に課題があります。

▶▶▶ 水質のマイナスイメージ

区民世論調査の結果より、川に対する満足度は低く、「汚い」「臭い」というマイナスイメージが根付いていることが課題です。雨天時の汚水の流入や川の流れの滞留による悪臭などが原因として挙げられています。

▶▶▶ 川沿いの閉鎖空間と背を向けた建築物

建築基準法や河川管理上の規制により、川沿いの建築物は川に対して背を向けて立てられている傾向があります。また、川沿いの現状は建て詰まっており、場所によっては首都高速道路に覆われ閉鎖的な空間が存在しています。

▶▶▶ 水面から見る景色・歴史ある景観の保全

景観には、川沿いから見る景色と水面からみる景色の2つの観点があります。現在の景観は、川沿いからの景色を意識した計画が多く、水面からの景色の保全については検討が進んでいないという課題があります。川には、歴史が古い石垣や、歴史ある特徴的な建築物、昔のエンジニアが架けた魅力ある橋りょうなど多くの景観資源が残っています。それらの資源が水面から見え、歴史を感じることができる環境づくりが課題です。



日本橋川エリアの課題

▶▶▶ 業務集積地における空地の拡充と連続性

大手町・丸の内・有楽町地域では、東京都の都市開発諸制度を活用した建築物が多く、それらの建築敷地内には、まとまった空地が存在しています。川沿いには、大手町川端緑道が存在し、地域の賑わいを創出しています。さらに、川沿いの魅力を向上させるためには、これらの空地や緑道の連続性を高める必要があります。例えば、民地内の空地と大手町川端緑道は連続した位置に設けられていますが、間にある幹線道路により分断されており、横断歩道が無いなど、連続性が課題となっています。

▶▶▶ 川とまちの一体感の改善

現在、川とまちの間は背の高い建築物が立ち並び、水辺を楽しむ空間がなく、川を活かしたまちづくりができていません。また、旧来の川を境界としたまちづくりが進み、対岸の街並みと一体感がない課題があります。

まちとまちの中間に位置する日本橋川上空には首都高速道路があり、まちを分断する境のような存在となっています。川とまちの一体感が不足しています。

▶▶▶ 川の上空の閉塞感

首都高速道路が川の上部空間を覆い、建築物が川に背を向けて立ち並んでいるために、川は閉鎖的な空間となっております。夏場は、強い日差しを遮り、時には雨を遮るものとしての有効性はありますが、川が薄暗い印象となっている課題は拭いきれません。



神田川エリアの課題

▶▶▶ 都心の溪谷のような景観のつながり

お茶の水近辺の貴重な溪谷のような景観について、千代田区側においては鉄道施設が川に面しており、擁壁ようへきのような構造になっています。北側の対岸に比べて緑などが少なく、対岸同士のつながりがありません。

▶▶▶ 川沿いとまちの分断

神田川沿いは、民地や線路敷きが多く、川沿いを歩く空間が少ないため、川を感じられるまちのつくりとなっていません。そのため、神田川エリアには、多くの資源がありますが、川とまちの資源につながりは感じられません。

▶▶▶ 大規模集客施設との連携

御茶ノ水駅から秋葉原駅には、大規模集客施設や秋葉原電気街など地域の賑わいが川沿い周辺に存在しています。

このような集客施設等に訪れる人々が神田川まで足を運ぶことは少なく、多様な人々が訪れるまちのスポットと川沿いの連携が希薄な状況となっています。

📍 外濠エリアの課題

▶▶▶ 歴史ある自然を活かした景観形成

外濠公園の樹木や江戸時代からの土手としての歴史性を活かした、都心の貴重な憩いの空間を向上させる必要があります。

▶▶▶ 大学などの大規模施設との連携

大学などの大規模施設を中心に、周辺の公園・広場・民地と連携をとり、住む人や訪れる人にとって更に魅力のある場所にする必要があります。

▶▶▶ 外濠を挟んだ隣接区との連携

外濠エリアは、千代田区と新宿区及び港区との区界に位置しています。そのため、区を超えての外濠周辺の道路等の意匠や、サイン類の統一などがなされていません。外濠周辺を移動する歩行者が歩きやすく、心地よい空間を作っていく必要があります。

10 ▶

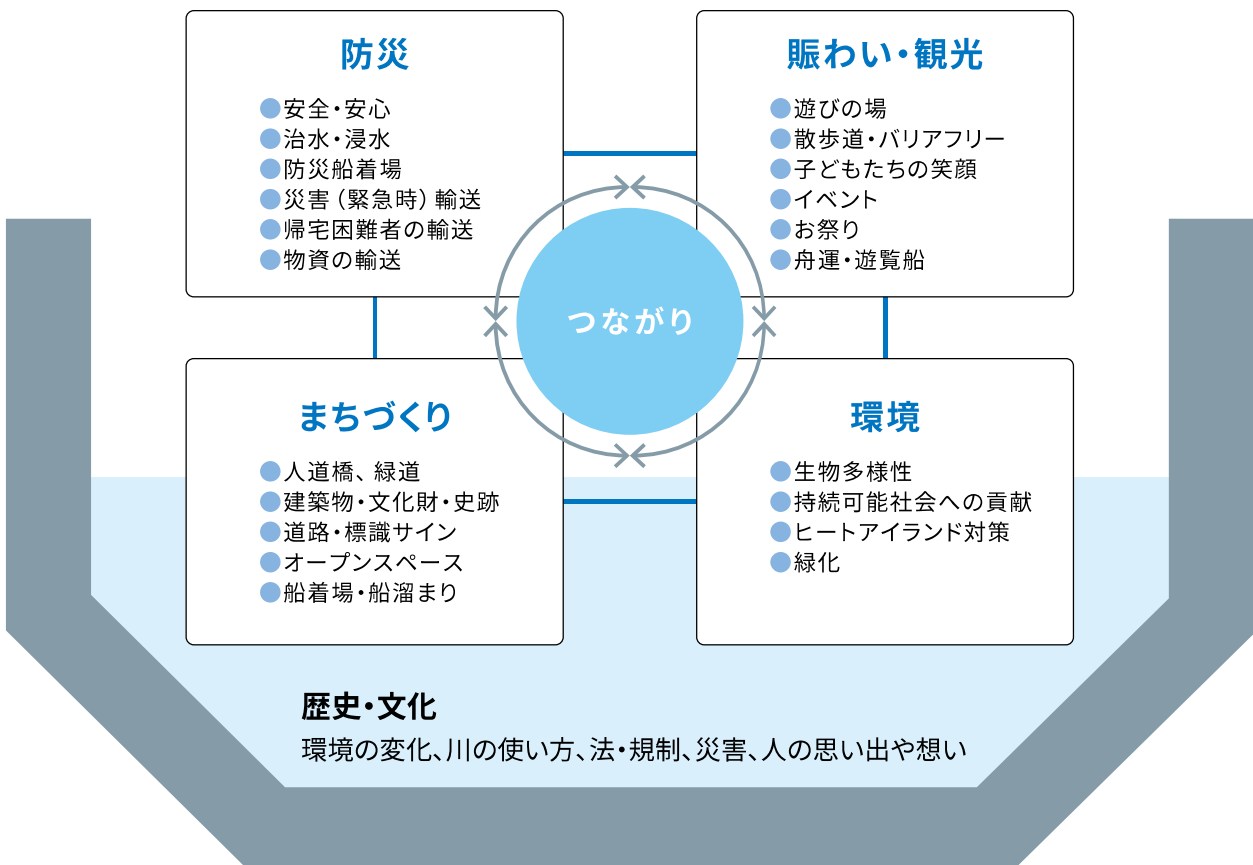
川沿いのポテンシャル

誰もが楽しめ、歩きたくなる場

川沿いには住む人が増え、魅力が感じられるまちづくりへの要望も高まっています。

また、川や橋りょうには歴史があり、千代田区民にとっては楽しい記憶も残っている場です。しかしながら、現状では、川沿いにある歴史を感じ・記憶を多く残す資源が、各々孤立しているという課題があります。川をとりまく要素にバランスよくつながりが出てくると、川沿いは、多様な人々が集まり「笑顔」や「賑わい」が生まれる魅力ある場所になれるポテンシャルがあります。川を誰もが楽しめ、川沿いが歩きたくなる場所となるように、川沿いにつながりを持たせ魅力あるまちにすることで、ウォークラブルなまちづくりに貢献することになります。

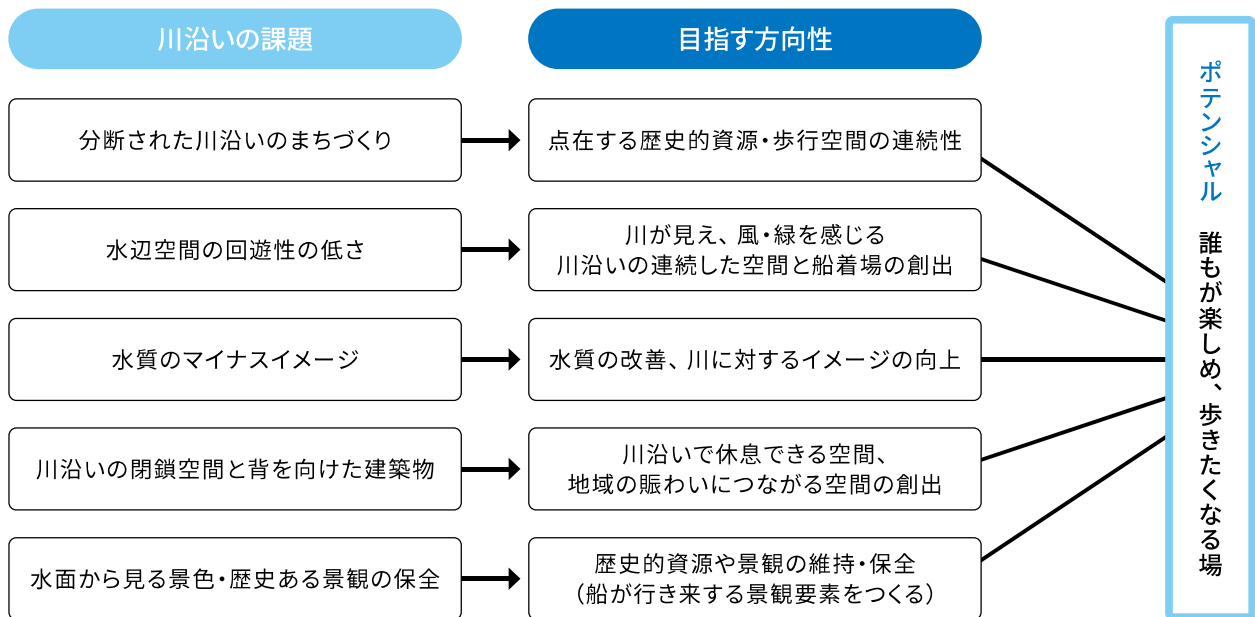
■川がとりまく要素の安定化のイメージ



千代田区の川沿いの空間が抱える課題と川沿いの空間が持つポテンシャルを合わせて考慮すると、目指す方向性は以下ようになります。

- 点在する歴史的資源・歩行空間の連続性
- 川が見え、風・緑を感じる川沿いの連続した空間と船着場の創出
- 水質の改善、川に対するイメージの向上
- 川沿いで休息できる空間、地域の賑わいにつながる空間の創出
- 歴史的資源や景観の維持・保全（船が行き来する景観要素をつくる）

■川沿いの課題と目指す方向性の関係と、ポテンシャル発揮のイメージ



■第2章から第4章の構成図

